詫間中学校
道徳通信

こころの玉手箱

2021. 1. 18 (月)

1月号

「東京ディズニーランドから学ぶ」

開園以来、毎年 1,000 万人以上の人が訪れている東京ディズニーランド。一度訪れた人が「また行きたい」と思うのも、ディズニーランドが夢と感動を与えてくれるからでしょう。そのために、毎日 7,000 人もの人が従業員（キャスト）として働いているのです。今回のイ～なの日は、東京ディズニーランドで働くキャストの話をもとに考えてみました。

☆　1年生　☆

☆　自分たち以外人がいない所で、この仕事を７時間もするなんて、すべてはお客さんに対する熱い思いと、お客さんに楽しんでもらいたい気持ちからなのだと思いました。話しかけて掃除すると寂しくなくなるし、楽しくなるという発想はすごいと思いました。

☆　掃除をすることによって、自分の心も磨かれていくのだなと感じました。嫌なことでもお客さんのためにできる人はすごいと思いました。私も「夢」と「感動」を与えられる人になりたいです。

☆　ナイトカストーディアルの人たちが、苦しくても、つらくてもその壁を越えてポジティブに取り組んでいることが分かり、心が温かくなりました。

☆　前に行ったことがあり、その時に笑顔で掃除をしてくれていたキャストの方はすごく印象に残っています。アトラクションを引き立たせているのは外がきれいだからなんだと思いました。私も嫌なことにも進んで挑戦したいです。

☆　2年生　☆

☆　とても大変なのに、工夫をして楽しく仕事ができていてすごいと思いました。嫌だからやらないではなくて、嫌だけどどうしたら楽しくなるか考えることが大切だと分かりました。

☆　仕事をするのが嫌で嫌で仕方がなかった若いナイトカストーディアルが、掃除仕事の魅力を見つけ、今では誇りを持っていることに感動した。自分も誇りの持てる職業に就きたい。

☆　自分のやらなければいけないことに誇りを持ってやるかやらないかで、楽しくできるかできないかが決まると思いました。私は受験生になります。自分の得意なことや不得意なことに誇りを持って楽しく勉強していけたらと思います。

☆　ディズニーはとても広くて、ナイトカストーディアルの方たちは大変だなと思いました。でも、さみしくないように楽しみながら掃除をしていて、心が温まりました。「お客様に夢と感動をプレゼント」本当にできていてすごいと思いました。

☆　3年生　☆

☆　私も東京ディズニーに行ったことがあります。キャストの人たちはみんな優しくて、とても楽しかった思い出があります。でも、その裏ではキャストの人たちが大変な思いをしてくれています。自分たちのために、考え方を変えてまで頑張ってくれているのだと感動しました。

☆　ナイトカストーディアルの仕事は大変だと思うけれど、夢の国と言われるぐらい非日常に入り込めるのは、ごみがなかったり、トイレがきれいだったりするからなのかなと思いました。

☆　嫌な仕事でも、嫌とかやめたいなどと思うのではなく、考え方を変え、前向きにどうしたら楽しくなるかを考えられるのはすごいと思いました。私も嫌だから･･･と思うのではなく、こうしたら楽しくなるなどと見方を変え、考えていきたいと思いました。

☆　仕事は大変だけど、楽しみながらしていてすごいと思いました。ディズニーランドをきれいにしたいという気持ちが伝わってきて、一生懸命に仕事をしている人はとてもかっこいいと思いました。

保護者の皆さんへ

お子様と意見を交換して，感想などをお気軽にお寄せください。

切り取り線

保護者返信欄（お子さんを通じて担任までお渡し下さい。）

『東京ディズニーランドから学ぶ』

令和３年　１／１４実施

クイズに挑戦してみてください。

第１問　ディズニーランドの創始者の名前は？　（　　）

第２問　ディズニーランドをつくるとき、一番大事にした考えとは？

お客様に（　　）と（　　）をプレゼントする。

第３問　ディズニーランドが一番力を入れている仕事とは？　（　　）

第４問　（　　）くらいきれいにする。

※　答えはお子様に聞いてみてください。

東京ディズニーランドの役員である北村さんは、従業員とコミュニケーションとるために、月に２，３回は、自らナイトカストーディアルとして深夜の掃除をするそうである。

ある夜、北村さんが「アドベンチャーランド」を掃除し、食堂の厨房を洗い終えた午前３時頃、「トゥモローランド」へ移動したときのことである。そこには大きなトイレがあり、若いナイトカストーディアルが掃除しているのが見えた。しかし、彼が一人で一生懸命ごしごしと掃除をしているはずなのに、そのトイレから話し声が聞こえるのである。

北村さんが不思議に思って、近づいてよく聞いてみると、なんと彼は便器に話しかけながら掃除をしていたのである。これには北村さんはびっくりした。そしてなぜ便器に話しかけているのかを彼にたずねた。彼はポツリポツリと話し始めた。

「ぼくは自分で希望してこの職業を選んだけれども、この仕事が嫌で嫌で仕方がありませんでした。夜はやっぱり寂しいし、こんなに広いところを少ない人数でピカピカにするのはつらい。どうしてこんなことをやっているのか、情けなくなってきたんです。何度もやめようと思った。

でも、本場アメリカのディズニーランドへ行って考え方が変わったんです。なぜなら向こうのナイトカストーディアルは『こんな素晴らしい仕事をどうしていやがるんだ？ぼくは全然寂しくないよ。なぜだか教えてやろうか。』と言って、ぼくをトイレに連れて行ってくれたんです、そして『これはみんな僕の友だちだよ、名前もあるんだ。』と言って、ずらっと並んだ便器を『トム、ジャック、スティーブ…』と順番に呼んで紹介してくれました。『ぼくは毎晩、彼らと話しながら仕事をしてるんだ』と、言うなり彼は、『トム、どうだい元気かい？そうか、今日は思いっきり汚されたからきれいにしてくれって？よし、思いっきりきれいにしてあげるよ』なんて言いながら掃除していくんです。『こうしてきれいにしてあげると、便器も喜ぶし、お客さんも喜ぶんだ。そして僕も楽しいよ。』

これはすごい。ぼくは思わず泣けてきました。よし、ぼくもこれで行こう。そう思って日本に帰ってきてから、頑張っているんです。」

彼はこんな話をしてくれたのです。北村さんは心がほっと温まるような感動を覚えました。